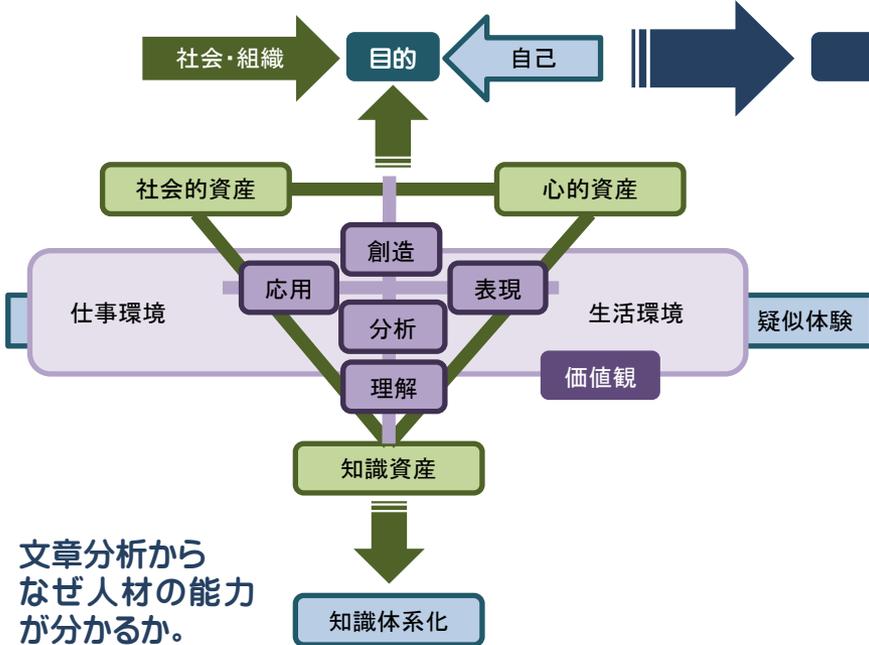


人の基本能力

色には三原色があると分かっている。三原色はシアン、マゼンタ、イエローであり、これらを混ぜ合わせて、あらゆる色が作られる。但し、人の眼で識別できる範囲である。見えない色はないのと同じである。

人の能力にも、三原色と同じように、様々な能力を作りだす基の力がある。理解力、分析力、創造力、応用力、表現力の5つである。これを**五原力**と言う。但し、文章分析《文道》で分析を積み重ねた結果、導き出した答えである。ビジネス能力で挙げられている大半の能力は、五原力で説明できる。

例えば、情報力は「理解力」「分析力」に目的意識が加えられて構成される。コミュニケーション力は「理解力」「分析力」「応用力」「表現力」にやはり目的意識が加えられる。構成された五原力の使われる比率が違っている。基礎能力を高めるためには、五原力を鍛えれば良い。



行動は外から観察できる。行動を作り出している元は見えない。基本能力等々は分析して抽出するしかない。

人は五原力(理解力、分析力、創造力、応用力、表現力)を平等に持つ。他に三つの資産を持つ。知識資産、心的資産、社会的資産である。これも誰もが持つ。優れるようになるには、自身を活用して育てていく。

五原力は日常生活の中で培われていく。文字が読めるようになれば、知識が吸収の範囲が広がり、画像認識と合わせて疑似体験が積み重なる。仕事をするようになれば、目的意識が強くなる。さらに五原力を刺激する。

社会的資産は、組織や社会での立ち位置を示す。自らが位置づけを認識し、高めていこうとする。リーダーシップ、責任感、成果などの認識を示す。

心的資産は、対人姿勢を含め、やる気、真摯さ、などを示し、性格に関わるところが含まれている。

知識資産は、基礎知識、教養、専門知識などで、仕事や生活で、活用できる知識を示す。経験を積み重ね、自らが獲得した知識を合わせて、個人の知識体系が作られる。

社会的資産、心的資産、知識資産、五原力が発展し、バランスが取れたとき、自己実現が達成される。これらの資産と能力は、様々な能力として現れてくる。

能力を持っていても、役割と、立ち位置、責任がなければ、能力は退化する。仕事としての目的、自身の目的を知覚し、行動が合わさって成長する。

右の図は知識構造を示す。一つの知識は図のように構成されて活用される。知識体系も同じように組み合わされている。推理、発想は、常に目的が発生していて機能し、記憶、論理が活用される。



知識構造

文章分析から なぜ人材の能力 が分かるか。

「文は人なり」だからである。知らない単語は使えない。知識がなければ書き表せない。知識が体系化されていなければ、論理として成り立たない。目的が不明瞭であれば、主張が曖昧になり、ピンボケになる。

へりくだった言い方、強引な表現、控え目な言い方、傍若無人な言い方、自己中心な言い方、気持ちのこもらない言い方、等々が、対人姿勢を示す。

日本語を正しく使う方が良いが、間違っている能力とは関わりない。趣旨、趣旨説明、前提となる状況が、語られているかによる。

使われている単語は、興味のある分野を示し、関係する科学分野を示している。文章に知識構造が現れる。